



スナメリを見守り続ける海響館のスタッフ
 と立川課長(右から2番目)

海響館のスナメリが 日本動物大賞功労動物賞を受賞

海響館が地道に実施してきたスナメリの救護と飼育研究が評価され、3月13日、「みさき」「かなな」と、2頭の間に生まれた子どもが第8回日本動物大賞功労動物賞を受賞しました。今回は、海響館海獣展示課の立川課長に話を伺いました。

「みさき」と「かなな」の成長と新しい命の誕生

雄のスナメリ「みさき」は宇部沖で漁網に絡まっているところを救護され、雌の「かなな」は同じく宇部の埋め立て中の構内に入り込んでいたところを救護されました。2頭とも平成24年に海響館に収容され、医療的なケアにより健康を取り戻した後、調査研究目的で農林水産大臣の許可を得て飼育を継続してきました。平成27年5月23日、この2頭の間に雄の子どもが誕生しました。

熱心で丁寧な研究

スナメリは、水深50m以浅の沿岸域に生息している小型クジラの

一種です。下関の近海に住むスナメリの体長は、生まれた時は80cm程度、大人になると180cm〜190cmになります。普段は2〜3頭の群れで生活しているようですが、大きな群れで泳ぐ様子も観察されています。

海響館では、主に成長と繁殖に関わる研究を行ってきました。2週間に1回、体の長さや体重と胴回りを計測し、スナメリがどのように成長していくかを研究しています。

繁殖については、2週間に1回採取した血液から性ホルモンを調査し、繁殖に適する時期や、光と性ホルモン変動の関係性を研究しています。将来的には人工繁殖も視野に入れ、今後も研究に取り組んでいくとのことでした。

「かなな」の出産

出産に際して最も気を付けたのは「かなな」の妊娠期間中の健康管理だったそうです。

人間と同様、妊娠しているスナメリに薬を投与することはできません。ストレスによる免疫力低下

と、それに伴う感染症などを防ぐため、環境の変化をできるだけ避けるとともに、プールの殺菌や清掃にも最大限の注意を払い、「かなな」が過ごしやすい生活環境を整えたということです。

健康に成長するには刺激も必要

出産後は授乳期間や頻度を丁寧に記録してきましたが、海響館でのスナメリの出産は初めてだったので、それが適正なのか、スタッフが手助けするべきかどうか、戸惑いながら観察を続けたというのが正直なところだったそうです。

現在、生まれた子どもは母親の「かなな」と同じ水槽で生活していますが、環境的な刺激を与え、他のスナメリとの生活に慣れさせるため、大人のスナメリ「さつき」も同じ水槽に入っています。子ども



仲良く泳ぐスナメリの「かなな」(左)とその子ども

ものスナメリは、「さつき」と体の接触をするなど、楽しく遊んでいるそうです。

一般公開は海響館に確認を!

スナメリの母子の一般公開については現在検討を行っています。公開時期については改めてホームページなどでお知らせします。

海響館 ☎228-1100